

<参考文献> 2008年6月8日改定

松本恭子(2008)「年少者日本語教育研究の最近の動向と課題 (2000年~2007年)・ボランティア支援者の立場からの問題提起」『平成20年度日本語教育学会第1回研究集会予稿集』、61-64頁、日本語教育学会

第5期：2000年~2002年

(1) 年少者日本語教育の概要と理念・指導方針

概要と現状の問題：日本語教育学会(2000)

地域社会の年少者日本語教育現状と課題：野山(2000)

日本語力測定のための試み：カナダ日本語教育振興会 OBC プロジェクト(2000)、中島(2001)、中島・ヌナス(2001)、岡崎(2002)、伊東・他(2000)、伊東(2002)

伊東祐郎・菊田玲子・牟田博光(2000)「外国人児童生徒の日本語力測定試験開発のための基礎研究(2)」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26、(伊東祐郎 2002:23-35頁再録)

伊東祐郎(2002)『在日外国人児童生徒の日本語能力測定方法に関わる基礎研究およびテスト開発』課題番号11680309、平成11年度~平成13年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、平成14年3月、(研究代表者：伊東祐郎)

岡崎敏雄(2002)「学習言語能力をどう測るか — TOAM の開発：言語能力の生態学的見方」『日本語教育ブックレット1：多言語環境にある子どもの言語能力の評価』、48-59頁、国立国語研究所

カナダ日本語教育振興会 OBC プロジェクト(2000)『子どもの会話力の見方と評価 バイリンガル会話テスト(OBC)の開発』、カナダ日本語教育振興会

中島和子(2001)「子どもを対象とした活用法」牧野誠一・鎌田修・山内博之・齋藤真理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子『ACTFL-OPI 入門 日本語学習者の「話す力」を客観的に測る』、152-169頁、アルク

\_\_\_\_\_ / ロザナ・ヌナス(2001)「日本語獲得と継承語喪失のダイナミクス 日本の小・中学校のポルトガル語話者の実態を踏まえて」

(<http://www.colorado.edu/ealld/atj/ATJ/seminar2001/nakajima.html>) 2004.2.19.取得

日本語教育学会(2000)「講演とシンポジウム「年少者への日本語教育を考える」概要報告」『日本語教育』105号、121-171頁

野山 広(2000)「地域社会における年少者への日本語教育の現状と課題」山本雅代(編著)『日本のバイリンガル教育』、162-212頁、明石書店

(2) 実態調査・習得研究

小学校の教科書で使われている語彙の調査：白鳥・他(2000)、小高・他(2001)、文型を整理し、教科での表現を分析：中尾(2000)

使用実態(習得研究、縦断調査)：松本(2000a, 2000c)、竹中(2001)、

習得研究(実験的手法)：田口(2001)、

使用語彙の発達(横断調査、二言語併用)：生田(2001, 2002)、

意識調査・実態調査：王(2001)、友沢(2002)、

都立高校でのフィールドワーク：広崎(2002)

母学級での実態報告：谷(2000)、三田(2001)、

- 生田裕子(2001)「ブラジル人中学生の語彙の発達」『日本語教育』110号、120-129頁  
 \_\_\_\_\_(2002)「ブラジル人中学生の第1言語能力と第2言語能力の関係 作文のタスクを通して」『世界の日本語教育』12号、63-77頁、国際交流基金日本語国際センター
- 王 彩香(2001)「中国帰国者」児童生徒のエスニシティと学校教育の在り方 両国の狭間にいる子供達」『中国帰国者定着促進センター紀要』第9号、  
[http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm) )2008.2.18.取得
- 小高 愛・白鳥智美・佐藤尚子・宮川和子・遠藤真由実(2001)「児童生徒に対する日本語教育のための語彙調査 小学校社会科教科書で使用される語彙と文法の特徴について」『2001年度日本語教育学会春季大会予稿集』、219-224頁、日本語教育学会
- 白鳥智美・玉井裕子・小澤容子・樋口万喜子(2000)「児童生徒に対する日本語教育のための語彙調査 社会科教科書の語彙」『2000年度日本語教育学会春季大会予稿集』、136-141頁、日本語教育学会
- 竹中理恵(2001)「タガログ語を母語とする児童の発話における助詞の使用実態 1年間のケーススタディを通して」『南山日本語教育』第8号、260-299頁、南山大学大学院外国語学  
 研究科日本語教育専攻
- 田口香奈恵(2001)「ブラジル人児童の受身・使役表現の習得に関する事例研究 日本人児童・幼児との比較を通して」『第二言語としての日本語の習得研究』第4号、116-133頁、  
 第二言語習得研究会
- 谷 啓子(2000)「日系ブラジル人児童をめぐる関係性について 在籍学級におけるインターアクションの分析から」国立国語研究所『日本語とポルトガル語(2) ブラジル人と日本人との接触場面 ―』227-264頁、くろしお出版
- 友沢昭江(2002)「中国帰国生の大学における教育を考える」『桃山学院大学総合研究所紀要』第28巻第2号、39-56頁、  
[http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm) )2004.2.18.取得
- 中尾桂子(2000)「児童に対する日本語教育の内容について 小学校教科書の文型調査から」『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』166-171頁、日本語教育学会
- 広崎純子(2002)「公立高校における日本語指導の位置付け エスノグラフィ的記述から ―」『2002年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、69-74頁、日本語教育学会
- 松本恭子(2000a)「[縦断調査報告]ある中国人児童の来日2年間の動詞形態素使用実態 縦断調査結果と日本人児童、及びロシア人児童との比較」『南山日本語教育』第7号、115-127頁、南山大学大学院外国語学研究科日本語教育専攻
- \_\_\_\_\_ (2000c)「ある中国人児童の来日2年間の助詞機能の使用状況」『日本語教育論集』16、1-22頁、国立国語研究所日本語教育センター
- 三田美佐子(2001)「教科場面でのブラジル人児童のインターアクション 担任教師・日本人児童との談話管理のプロセス」『2001年度日本語教育学会春季大会予稿集』、213-218頁、日本語教育学会

### (3) 教科支援・実践報告

- 実践報告：松本(2000d)、松本(2001)、松本・坂本(2002)  
 齋藤(2001)、大上(2001)、実践シェアの会(2000,2001a,2001b,2002a,2002b,2003)
- 内容重視のアプローチによる学習支援：齋藤他(2000)、清田(2001)、
- 教科支援：杉山(2002)、
- 教室での教科指導の実態：勝原(2002)

教科理解実態調査：加藤(2000)

教科語彙／生活語彙：島田・他(2000)

母語を用いた教科指導：畠山・他(2000)

大上忠幸(2001)「非漢字圏生徒に対する「書く」指導 「学習言語」習得を視野に入れた実践から」『中国帰国者定着促進センター紀要』第9号、

(<http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/ronbun/kiyo/9/>) 2004.2.18.取得

加藤あさぎ(2000)「外国人児童に対する日本語教育における「生活言語」と「学習言語」の2側面教育の有効性について」『2000年度日本語教育学会春季大会予稿集』、142-147頁、日本語教育学会

勝原亜希子(2002)「中国帰国児童の教科学習支援に関する研究 — 算数科を中心に —」2001年度広島大学大学院修士論文

([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm))

2008.2.18.取得

清田淳子(2001)「教科としての「国語」と日本語教育を統合した内容重視のアプローチの試み」『日本語教育』111号、76-85頁

齋藤ひろみ(2001)「実践報告 日本語初期段階における作文指導について考える 63期子どもクラスの作文の授業実践を基に」『中国帰国者定着促進センター紀要』第9号、

(<http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/ronbun/kiyo/9/>) 2008.1.29.取得

\_\_\_\_\_・池上摩希子・田中義栄・小川珠子・大沢操子(2000)「子どもクラスの授業実践記録 内容重視のアプローチによる「日本語と教科の統合学習」の例」『中国帰国者定着促進センター紀要』第8号、

([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm)) 2008.2.18.取得

島田裕子・花島健司・熊崎 泉(2000)「帰国・外国人児童の教科理解につながる生活言語の習得多義語の認識の重要性」『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、178-183頁、日本語教育学会

実践シェアの会(2000)『実践シェアの会立ち上げ報告会予稿集』、実践シェアの会

\_\_\_\_\_ (2001a)『実践シェアの会 第2回報告会予稿集』、実践シェアの会

\_\_\_\_\_ (2001b)『実践シェアの会 第3回報告会予稿集』、実践シェアの会

\_\_\_\_\_ (2002)『実践シェアの会 第4回報告会予稿集&報告集』、実践シェアの会

\_\_\_\_\_ (2003a)『実践シェアの会 第5回報告会予稿集&報告集』、実践シェアの会

\_\_\_\_\_ (2003b)『実践シェアの会 第6回報告会予稿集&報告集』、実践シェアの会

杉山晴子(2002)「外国人児童生徒のための教科学習支援のための一提案 算数文章題における読みのストラテジー運用の考察から」『南山日本語教育』第9号、97-136、南山大学大学院外国語学研究科日本語教育専攻

畠山理恵・清田淳子・佐藤真紀・高橋若菜・原みずほ(2000)「年少者日本語教育における学習言語習得のためのネットワーク — 大学を起点とするネットワークの可能性 —」『2000年度日本語教育学会春季大会予稿集』、130-135頁、日本語教育学会

松本恭子(2000d)「児童日本語学習者への「取り出し日本語指導」 — 教室活動を反映したワークシート完成への道 —」『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集 パネルセッション：授業の実践報告のあるべき姿とは？ —現場の教師が参加したくなる報告会を目指して—』、297-299頁、日本語教育学会

\_\_\_\_\_ (2001)「子ども達の様々な『書く』を応援する！」『実践シェアの会第2回報告会予稿集』23-28頁、実践シェアの会

\_\_\_\_\_・坂本正(2002)「実践報告：公立小学校国際理解クラスの活動」『南山大学国際教育センター紀要』第3号、91-107頁、南山大学国際教育センター

## 第6期：2003年～2007年

- (1) 年少者日本語教育の概要と理念・指導方針  
教育観の変容「学びの活性化」：宇都宮(2003)  
学校教育での不十分な日本語指導の指摘とその原因：山本(2003)、  
中学生の日本語教育の枠組み：埋橋(2004)  
多言語多文化主義と子どもの教育問題：山田(2004, 2007)、  
JSLバンドスケールと言語能力観：川上(2003a,2003b, 2004)、川上(2005a)、川上(2005b)  
川上(2005c)、川上編(2006)、川上(2007)  
現場の知見からでた日本語能力判定基準表(学校で必要な日本語)：田中(2007)  
バイリンガル会話力の習得とJSLの直面する課題：中島(2005)  
バイリンガル読書力の測定：中島(2006)  
「JSLカリキュラム」：文部科学省(2003, 2005, 2007)  
日本語学習と母語学習のネットワーク化：岡崎(2004, 2005)、  
年少者日本語教育の課題：岡崎 眸(2005b)  
共生言語としての日本語学習：岡崎 眸(2005a)  
年少者日本語教育学構築への動き：川上他(2004)、川上(2004)、齋藤他(2005)、石井(2006)、  
野山他(2006)、石井他(2007)、野山他(2008)、池上他(2008)  
多文化共生社会と年少者日本語支援のあらたな展望：渡辺(2005)、関口(2005)、金子(2005)  
岡崎 眸(2005c)、齋藤(2005a) 山田(2005)  
「生活者としての外国人への日本語教育」の中の年少者教育：大森(2007)、稲岡(2007)  
バイリンガル教育、母語保持、日本の現状：湯川(2006)、齋藤(2005c)  
ダブルリミテッド・一時的セミリンガル現象：中島(2007)、生田(2007)、高橋(2007)、滑川(2007)  
マイノリティ自身が行っている母語継承語教育の現状：松本一子(2005)  
自然習得との関係：池上(2005)  
海外での多言語多文化教育からの示唆：バトラー(2003, 2006)、  
スペイン・ブラウン・萩野(2006)  
地域における年少者日本語教育の現状：厚生労働省(子ども家庭総合研究事業)(2004)  
川上・市瀬(2005)、平高(2005)、  
楊・他(2005)、伊藤(2007)、ヤン・佐藤(2007)、  
五十嵐(2008)、  
「外国人生徒のための授業づくり」の実践記録と学校文化の問い直し：清水・児島編著(2006)  
第二言語習得研究からの研究方法への示唆：柴山(2006)、小柳(2006)、池上(2006)、齋藤恵(2006)

五十嵐恵美(2008)「公立小中学校の現場から見た発達保障」多文化共生社会における日本語教育研究会  
第三回研究会「外国にルーツを持つ子どもの発達保障—教育環境を考える—」発表資料  
池上摩希子(2005)「年少者の日本語教育と自然習得」『日本語学』3月号、76-85頁、明治書院  
\_\_\_\_\_ (2006)「JSL 児童生徒の学習環境と日本語習得に関する考察 —習得研究と実践を結ぶもの—」  
『第17回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会予稿集』24-26頁、第二言語習得研究会  
池上摩希子・今澤 悌・近田由紀子・内田紀子・齋藤ひろみ(2008)「学校教育における日本語教育の問  
い直し — 小・中学校の事例から考える年少者日本語教育の方向性と方法 —」『2008年度日

- 本語教育学会春季大会予稿集』245-255 頁、日本語教育学会
- 生田裕子(2007)「ブラジル人中学生の L1 と L2 の作文に見られる問題 —ダブルリミテッド現象の例から—」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』第3号、7-26 頁、母語・継承語・バイリンガル教育研究会
- 石井恵理子(2006)「年少者日本語教育の構築に向けて — 子どもの成長を支える言語教育として —」『日本語教育』128号、3-12 頁
- 石井恵理子・齋藤ひろみ・門倉正美・川上郁雄(2007)「年少者日本語教育における「JSL カリキュラム」とリテラシー教育」『2007 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、329-340、日本語教育学会
- 伊藤健人(2007)「定住外国人児童生徒の日本語教育 - 現場で何が必要なのか -」月刊『言語』vol.36.No.9、76 - 85 頁、大修館書店
- 稲岡伸哉(2007)「多文化共生の推進について —総務省 2006 年 3 月報告書の概要等—」『2007 年日本語教育学会秋季大会予稿集』41-44 頁、日本語教育学会
- 宇都宮裕章(2003)「学びの活性化と教育観 年少者日本語教育支援によせて」『日本語教育』116号、99-108 頁
- 埋橋淑子(2004)「中学校における日本語教育の枠組みと課題 — JSL 教育としての日本語教育へ —」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第8号  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm))  
2008 年 3 月 30 日取得
- 大森撰生(2007)「公立学校における外国人児童生徒教育について」『2007 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、27-33 頁、日本語教育学会
- 岡崎敏雄(2004)「年少者の日本語教育における学習のデザイン 日本語学習言語の習得と母語保持の統合的展開」小山悟・大友可能子・野原美和子(編)『言語と教育 日本語を対象として』、259-280 頁、くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2005)「年少者日本語教育と母語保持 — 日本語・母語相互育成学習における学習のデザイン —」鎌田修・筒井通雄・畑佐由起子・ナズキアン富美子・岡まゆみ編『言語教育の新展開 牧野成一教授古稀記念論集』、383-397 頁、ひつじ書房
- 岡崎 眸(2005a)「多言語・多文化共生時代の日本語教育 — 共生言語としての日本語学習 —」鎌田修・筒井通雄・畑佐由起子・ナズキアン富美子・岡まゆみ編『言語教育の新展開 牧野成一教授古稀記念論集』、367-382 頁、ひつじ書房
- 岡崎 眸(2005b)「年少者日本語教育の課題」お茶の水女子大学日本言語文化学研究会『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』編集委員会編『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』、165-179 頁、凡人社
- \_\_\_\_\_ (2005c)「多言語多文化共生社会における日本語教育への課題」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、38-42 頁、日本語教育学会
- 川上郁雄(2003a)「年少者日本語教育における「日本語能力測定」に関する観点と方法」『早稲田日本語教育研究』第2号、1-16 頁、早稲田大学大学院日本語教育研究科  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm))  
2008.2.18.取得
- \_\_\_\_\_ (2003b)「年少者日本語学習者の日本語能力測定の方法」『2003 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、125-130 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2004)「新時代の日本語教育をめざして 早稲田大学大学院日本語教育研究科の取り組み 第5回 「移動する子どもたち」の教育を考える」『日本語学』vol.23、62-73 頁、明治書院
- \_\_\_\_\_・石井恵里子・池上摩希子・齋藤ひろみ・野山 広(2004)「年少者日本語教育学の構築に向

- けて — 『日本語指導が必要な子どもたち』を問い直す — 、『2004 年度日本語教育学会春季大会予稿集』 273-284 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2005a) 「言語能力観から日本語教育のあり方を考える」リテラシー研究会『リテラシーズ』 1、3-18 頁、くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2005b) 「JSL バンドスケールを使った言語能力の把握 — 年少者日本語教育の実践研究として —」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、143-147 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2005c) 「バンドスケール評価 — 行動から言語能力をどうとらえるか —」『2005 年日本語教育学会秋季大会予稿集』、41-46 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ 編 (2006) 『「移動する子どもたち」と日本語教育 — 日本語を母語としない子どもへのことばの教育を考える』 明石書店
- \_\_\_\_\_ (2007) . 「日本語能力の把握から実践への道筋 — 「JSL バンドスケール」の意義と有効性 —」『国際研究集会予稿集「移動する子どもたち」の言語教育 — ESL と JSL の教育実践から —』 166-187 頁、年少者言語教育国際研究集会実行委員会
- 川上郁雄・市瀬智紀(2005) 「多国籍化する社会の言語教育とは何か — 地域と子どもの視点から —」日比谷潤子・平高史也編著『多言語社会と外国人の学習支援』、13-50 頁、慶応義塾大学出版会
- 金子正人(2005) 「年少者の教育実践を中心に — 国際教室の現場から —」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、33-37 頁、日本語教育学会
- 小柳かおる(2006) 「年少者の日本語習得研究から見えてくること」『第 17 回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会予稿集』 16-23 頁、第二言語習得研究会
- 厚生労働省(子ども家庭総合研究事業)「他民族文化社会における母子の健康に関する研究」班  
小島祥美・中村安英・横尾明親(2004)「共に育むふれあい交流都市をめざして—岐阜県可児市の歩み—」(外国人の子ども教育環境に関する実態調査報告書—行政・民間団体・大学関係者による協働研究・調査— (2003 年度調査のまとめ))、可児市・可児市国際交流協会
- 齋藤 恵(2006) 「JSL 児童生徒の「初期適応教育」の現場で見えてきたこと — 習得研究に望むこと—」『第 17 回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会予稿集』 27-32 頁、第二言語習得研究会
- 関口知子(2005) 「年少者のアイデンティティを中心に — 日系ブラジル人の年少者に対する調査から —」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、28-32 頁、日本語教育学会
- 齋藤ひろみ(2005a) 「年少者日本語教育の立場から — 子どもたちの学びをつなぐもの—」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、43-44 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2005c) 「日本国内の母語・継承語教育の現状と課題 — 地域及び学校における活動を中心に —」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』創刊号、25-43 頁、母語・継承語・バイリンガル教育研究会
- 齋藤ひろみ・小川珠子・石井恵理子・池上摩希子・川上郁雄(2005) 「年少者日本語教育の 4 領域から — 「ことばの力」を捉える — 「書くこと」を例に —」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、236-246 頁、日本語教育学会
- 清水睦美・児島明編著(2006) 『外国人生徒のためのカリキュラム — 学校文化の変革の可能性を探る —』 嵯峨野書院
- 柴山真琴(2006) 「年少者の日本語習得研究における質的研究の可能性」『第 17 回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会予稿集』 10-15 頁、第二言語習得研究会
- スペンス-ブラウン, ロビン・萩野祥子(2006) 「オーストラリアの年少者日本語教育 — 初等中等教育における日本語教育の理念と実践 —」『日本語教育』 128 号、46-58 頁
- 高橋朋子(2007) 「ダブルリミテッドの子どもたちの言語能力を考える — 日本生まれの中国帰国者三

- 世・四世の教育問題」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』第3号、27-49頁、  
母語・継承語・バイリンガル教育研究会
- 田中 薫(2007)「長期滞在・永住型生徒の日本語指導」『国際研究集会予稿集「移動する子どもたち」  
の言語教育　ESLとJSLの教育実践から　』202-211頁、年少者言語教育国際研究集会実  
行委員会
- 中島和子(2005)「ポルトガル語を母語とする国内小・中学生のバイリンガル会話力の習得」鎌田修・筒  
井通雄・畑佐由起子・ナズキアン富美子・岡まゆみ編『言語教育の新展開 牧野成一教授古稀  
記念論集』、399-424頁、ひつじ書房
- \_\_\_\_\_ (2006)「学校教育の中でバイリンガル読書力を育てる　New International Schoolにおけ  
るDRA-J読書力テストの開発を通して -」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』  
第2号、1-31頁、母語・継承語・バイリンガル教育研究会
- \_\_\_\_\_ (2007)「「ダブルリミテッド・一時的セミリンガル現象を考える」について」『母語・継承語・  
バイリンガル教育(MHB)研究』第3号、1-6頁、母語・継承語・バイリンガル教育研究会
- 滑川恵理子(2007)「ある幼少期入国児童を対象とする縦断的事例研究　4年半の日本語指導、言語  
テスト、言語環境調査から -」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』第3号、50-74  
頁、母語・継承語・バイリンガル教育研究会
- 野山 広・三宅なおみ・池上摩希子・石井恵理子(2006)「多言語環境下にある子どもの「学習能力」」、  
『2006年度日本語教育学会春季大会予稿集』、273-284、日本語教育学会
- 野山 広・藤田美佳・石井恵理子・桶谷仁美(2008)「就学前日本語教育とリテラシー教育の重要性  
母親が日本語非母語話者の子どもの場合　」『2008年度日本語教育学会春季大会予稿集』  
233-244頁、日本語教育学会
- バトラー後藤裕子(2003)『多言語社会の言語文化教育　英語を第二言語とする子どもへのアメリカ  
人教師たちの取り組み -』、くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2006)「年少者への言語文化教育　模索を続けるアメリカの事例が示唆すること  
」、『日本語教育』128号、59-69頁
- 平高史也(2005)「藤沢市における外国籍児童生徒の学習支援」日比谷潤子・平高史也編著『多言語社  
会と外国人の学習支援』、127-150頁、慶応義塾大学出版会
- 松本一子(2005)「日本国内の母語・継承語教育の現状　マイノリティ自身による実践」『母語・継承  
語・バイリンガル教育(MHB)研究』創刊号、96-106頁、母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)  
研究会
- 文部科学省(2003)『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(最終報告)』、文部科学省初  
等中等教育国際教育課  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hondou/15/07/03070202.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hondou/15/07/03070202.htm)) 2004.2.18.取得
- \_\_\_\_\_ (2005)『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(小学校編)』、文部科学省初  
等中等教育国際教育課  
([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm))2008.1.29取得
- \_\_\_\_\_ (2007)『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(中学校編)』、文部科学省初等  
中等教育国際教育課  
([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm)) 2008.1.28取得
- 山田 泉(2004)「第5章多文化・多言語主義と子どもの発達」田尻英三・田中宏・吉野正・山西優二・  
山田泉『外国人の定住と日本語教育』129-162頁、ひつじ書房
- \_\_\_\_\_ (2005)「ニューカマーの子どもたちと社会変革」『2005年度日本語教育学会春季大会予稿集』、

- 232-235 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2007) 「第 5 章多文化・多言語主義と子どもの発達」田尻英三・田中宏・吉野正・山西優二・山田泉『外国人の定住と日本語教育 増補版』129-167 頁、ひつじ書房
- 山本清隆(2003) 「外国人児童生徒の日本語指導を阻害する要因について」『日本語教育』117 号、73-82 頁
- ヤン-ジョンヨン・佐藤弘枝(2007) 「外国人児童の公立小学校における日本語教育環境づくり —送り迎えと給食と—」『2007 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』167-172 頁、日本語教育学会
- 楊帆・高橋わかな・吉武あさみ・助川泰彦(2005) 「仙台市公立保育所における日本語を母語としない子どもたちの現状と課題」日比谷潤子・平高史也編著『多言語社会と外国人の学習支援』69-84 頁、慶応義塾大学出版会
- 湯川笑子(2006) 「年少者教育における母語保持・伸長を考える」『日本語教育』128 号、13-23 頁
- 渡辺雅子(2005) 「年少者を取り巻く社会を中心に—社会学の立場から—」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』23-27 頁、日本語教育学会

## 2) 実態調査・習得研究

- 語彙調査：樋口他(2003)、樋口(2005)、安藤他(2007)
- 意識調査・実態調査：福嶋(2003)、関口・宮本(2004)、嶋(2004)
- 小学校の実態報告：矢崎(2004)、長谷部(2004)
- 言語少数派児童のいる学校の教員に対する意識調査：佐藤(2005)
- 就学前段階調査：柝原(2005)
- 漢字学習実態調査、学習ストラテジー：吉川(2004)
- 小学校の教科書で使われている語彙の調査：遠藤・他(2003)、遠藤・他(2004)
- 教科学習のための日本語指導項目（文の構造に関わる）調査：横田・小林(2005)
- 公立小学校での教師たちの日本語支援報告、支援者のための方法論：松本(2005)
- 日本人学校・補習校における課題：藤森・他(2006)
- 習得研究（実験的手法）：長谷川(2004, 2007),
- 幼児対象縦断調査（習得）：久野(2003)、久野(2005)、橋本(2006)
- 児童対象習得研究（縦断記録）：松本(2003)、松本(2007a)、黒田(2007)
- 中学生の書く力の発達（二言語の比較）：生田(2006)
- 児童の二言語能力の実態と対人関係構築の関係：山田佳野(2007)
- オーストラリアのイマージョン教室での自発的発話の機能分類（英語話者：多様な文化背景を持つ低学年児童）：萩野(2004)
- 教室と日本語学級の統合：櫻井(2008)

- 安藤淑子・一瀬八重子・川本遥・河野早也香・後藤由佳・近藤理子・高野栄輔・滝隼人・田中美夏・田中裕・森浦舞・山本真知子(2007) 「就学期外国籍児童に対する日本語文字・語彙教材開発のための語彙調査」『2007 年日本語教育学会春季大会』289-290、日本語教育学会
- 生田裕子(2006) 「ブラジル人中学生の「書く力」の発達 – 第 1 言語と第 2 言語による作文の観察から—」『日本語教育』128 号、70-79 頁
- 遠藤真由実・宮川和子・白鳥智美(2003) 「小学校理科教科書の語彙の分析 — 学習に使用される語彙の実態とその重要性 —」『2003 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』186-191 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_ (2004) 「小学校理科教科書の語彙に関する研究 — 両者に共通する動詞の分析を中心に —」『2004 年日本語教育学会春季大会予稿集』137-142 頁、日本語



教育学会

- 久野美津子(2003)「ブラジル人幼児の場所表現「に」と「で」の習得過程」『日本語教育』117号、83-92頁
- \_\_\_\_\_ (2005)「ブラジル人幼児2名による変化を表す「～なる」構造での誤りと習得過程」『日本語教育』127号、31-39頁
- 黒田 類(2007)「日本語学習者の引用表現習得過程に関する研究 — 年少者の縦断発話資料に基づいて —」『第18回第二言語習得研究会全国大会予稿集』、101-102、第二言語習得研究会
- 櫻井千穂(2008)「外国人児童の学びを促す在籍学級のあり方—母語力と日本語力の伸張を目指して—」『母語・継承語・バイリンガル教育(MBH)研究』第4号、1-26頁、母語・継承語・バイリンガル教育(MBH)研究会
- 佐藤真紀(2005)「言語少数派児童を担当する学校教員の意識 — エンパワーメントの観点からの考察 —」お茶の水女子大学日本言語文化学研究会『共生時代を生きる日本語教育 — 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 —』編集委員会編『共生時代を生きる日本語教育 — 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 —』、108-127頁、凡人社
- 関口友子・宮本節子(2004)「姫路市小中学生の学習意欲格差：多文化教育のための予備研究」『姫路工業大学環境人間学部研究報告』第6号、  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm)) 2008.4.21.取得
- 栃原玲子(2005)「就学前段階の外国人児童に対する日本語教育の現状」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、176-179頁、日本語教育学会
- 鳩 貴子(2004)「高等学校における短期留学生の受け入れと日本語教育に関する調査研究 — 受け入れガイドラインと日本語プログラム —」『南山日本語教育』第11号、159-191、南山大学大学院外国語学研究科日本語教育専攻
- 萩野祥子(2004)「年少者のイメージョン教室での自発的発話 — 機能的側面の調査 —」『日本語教育』122号、72-81頁
- 橋本ゆかり(2006)「日本語を第二言語とする英語母語話者幼児のテンス・アスペクトの習得プロセス — タ形・テイ形の使用について —」『日本語教育』131号、13-20頁
- 長谷川朋美(2004)「年少日本語学習者の格助詞に関する研究」『2004年度日本語教育学会春季大会予稿集』143-148頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2007)「日本語を第二言語とする児童生徒の学習言語能力と統語能力の関係を探る」『2007年度日本語教育学会春季大会予稿集』232-237頁、日本語教育学会
- 長谷部展子(2004)「日本の学校を紹介するビデオを作ろう — 「私らしさの表現を通じて友達とつながる」ための日本語支援活動 —」『日本語教育』121号、96-102頁
- 樋口万喜子・黒田矢須子・清水幹夫・後藤邦昭・齋藤京子(2003)「日本語を母語としない生徒の「学習語彙」習得の諸条件 — 公立中学校・高校の「語彙の調査」より —」『第14回第二言語習得研究会全国大会予稿集』、50-55頁、第二言語習得研究会
- 樋口万喜子(2005)「日本語を母語としない中学・高校生の語彙調査」  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm))
- 福嶋 智(2003)「外国人児童生徒在籍校における国際理解教育実践に関する一考察 — 中国帰国生徒在籍校における聞き取り調査から —」『中国帰国者定着促進センター紀要』第10号、  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm)) 2008.2.18.取得
- 藤森弘子・柏崎雅世・中村彰・伊東祐郎(2006)「日本人学校・補習校における日本語指導の現状と課題」『日本語教育』128号、80-89頁
- 松本恭子(2003)「ある中国人児童、来日2年9ヵ月間の「テ形」使用実態 — 発話資料と作文資料の分析 —」『南山日本語教育』第10号、29-52頁、南山大学大学院外国語学研究科

## 日本語教育専攻

- \_\_\_\_\_ (2004)「年少者日本語教育研究の動向と課題」『平成 16 年度日本語教育学会第 1 回研究集会予稿集』、9-12 頁、日本語教育学会  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm))  
2008 年 1 月 29 日取得
- \_\_\_\_\_ (2005)「外国につながるのある小学生を教えるとき、支援者が気をつけるべき 10 のルール・教師たちと共に歩んだ 9 年間の日本語支援報告と提言」『2005 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、130-136 頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2007a)「ある中国人児童来日 2 年 9 ヶ月間の誤用の変化と「発達上の誤用」の可能性」『平成 19 年度日本語教育学会第 3 回研究集会予稿集』、85-88 頁、日本語教育学会
- 矢崎満夫(2004)「外国人児童と日本人児童のインターアクションのための日本語支援 教室内ネットワーク形成を目指したソーシャルスキル学習の試み」『日本語教育』120 号、103-112 頁
- 山田佳野(2007)「公立小学校における外国人児童の 2 言語能力(日本語・母語)の実態」『平成 19 年度日本語教育学会第 3 回研究集会予稿集』、89-92 頁、日本語教育学会
- 横田淳子・小林幸江(2005)「外国人児童の教科学習のための日本語指導項目調査」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、164-169 頁、日本語教育学会
- 吉川陽子(2004)「非漢字圏児童の自律的漢字・漢字語彙習得支援 学習ストラテジー育成の観点から」南山大学大学院修士(外国語学研究科日本語教育専攻)特定課題研究  
([http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource\\_f.htm](http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/new-resource_f.htm)) 2006.3.24.取得

### 3) 教科支援・実践報告

- 「書くこと」に関する実践報告: 池上・他(2003)、池上・小川(2006)、大上(2005)  
母語を用いた教科指導: 原(2003, 2005)、朱(2003, 2005)、小田(2007)  
内容重視のアプローチと書く力の育成: 清田(2005)  
両言語リテラシーの獲得支援: 清田・朱(2005)  
日本語学級での「言語技術」学習が在籍学級での国語科学習への参加を促す: 逢坂(2005)  
支援者ネットワーク(研究者・地域・保護者): 齋藤・他(2003)、内田(2003, 2005)  
小学校の在籍クラスにおける研究授業(教師との協働、実践研究): 齋藤(2005b)  
JSL バンドスケールと小学校での実践: 川上・高橋(2006)、尾関(2007)  
JSL バンドスケールと高校での実践: 川上(2006)  
中国人中学生、協働による作文と問題解決: 小田(2005)  
マイノリティ言語(ベトナム語)の母語継承実践例(幼児): 中川(2006)  
初期指導から学習への橋渡しができる日本語教材作成: 松本(2007b)  
バイリンガル・フリースクールでの日本語教育実態: 富永(2007)

- 逢坂 隆(2005)「言語技術の習得を軸にした内容重視のアプローチによる日本語指導 — 小学校国語科における説明的文章の読解及び作文を通して —」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、157-163 頁、日本語教育学会
- 池上摩希子・大上忠幸・小川珠子(2003)「実践報告: 中高学年児童クラスにおける「書くこと」の指導・再考」『中国帰国者定着促進センター紀要』第 10 号、  
(<http://www.kikokusha-center.or.jp/resource/ronbun/kiyo/10/2-3158.htm>) 2004.2.18.取得
- 池上摩希子・小川珠子(2006)「年少日本語教育における「書くこと」の意味 — 中国帰国者定着促進

- センターでの取り組みから」『日本語教育』128号、36-46頁
- 内田紀子(2003)「学校現場における保護者ボランティアによる支援の可能性 公立中学校での協働による外国人生徒支援活動から」『2003年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、210-215頁、日本語教育学会
- \_\_\_\_\_ (2005)「公立中学校における保護者ボランティアによる支援の可能性」お茶の水女子大学日本言語文化学会『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』編集委員会編『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』、67-82頁、凡人社
- 大上忠幸(2005)「中国の作文教育を受けたJSL児童への“書くこと”の指導」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、170-175頁、日本語教育学会
- 尾関 史(2007)「移動する子供たちの「ことばの力」を育てる — 子供を取り巻く環境の多面的な把握から—」『2007年日本語教育学会秋季大会予稿集』161-166頁、日本語教育学会
- 小田珠生(2005)「中国人中学生が支援者との協働による作文生成において解決した問題」『世界の日本語教育』15、207-222頁、国際交流基金日本語国際センター
- 小田珠生(2007)「母親による言語少数派生徒の母語保持・育成教育の可能性—「母語・日本語・教科相互育成学習モデル」の実践から—」『言語文化と日本語教育』第34号、1-10頁、お茶の水女子大学 日本言語文化学会
- 川上郁雄(2006)「高校レベルのJSL生徒の日本語能力の実態とその背景にあるもの—「JSLバンドスケール」による調査を踏まえて」『2006年度日本語教育学会春季大会予稿集』103-108頁、日本語教育学会
- 川上郁雄・高橋理恵(2006)「JSL児童の日本語能力の把握から実践への道すじ — 新宿区大久保小学校の実践をもとに —」『日本語教育』128号、24-35頁
- 清田淳子(2005)「母語を活用した内容重視のアプローチにおける書く力の育成」お茶の水女子大学日本言語文化学会『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』編集委員会編『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』、83-107頁、凡人社
- 清田淳子・朱 桂栄(2005)「両言語リテラシー獲得をどう支援するか—第一言語の力が不十分な子どもの場合」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』創刊号、44-66頁、母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会
- 齋藤ひろみ・原みずほ・小笠恵美子(2003)「教師と外国人児童保護者の相互理解の場づくりに向けて 研究者による保護者インタビューの結果報告は相互理解に貢献できるか」『2003年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、204-209頁、日本語教育学会
- 齋藤ひろみ(2005b)「子どもたちのことばを育む」授業作り — 教師と研究者による実践研究の取り組み —」『日本語教育』126号、35-44頁
- 朱 桂栄(2003)「教科学習における母語の役割 — 来日間もない中国人児童の「国語」学習の場合 —」『日本語教育』119号、75-84頁
- \_\_\_\_\_ (2005)「母語による先行学習」による言語少数派の子どもの学びの継続 — 母語の読み書き能力を持っている子どもの「国語」学習の場合 —」お茶の水女子大学日本言語文化学会『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』編集委員会編『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』、67-82頁、凡人社
- 富永和歌(2007)「バイリンガル・フリースクールにおける日本語教育の事例」『2007年度日本語教育学会春季大会予稿集』、238-243頁、日本語教育学会

- 中川康弘(2006)「言語形成期前期にある子供への母語継承実践に関する一考察 — ある日本・ベトナムカップルの事例から -」『2006 年度日本語教育学会春季大会予稿集』、211-216 頁、日本語教育学会
- 原みずほ(2003)「乗算的バイリンガリズムと支援教室 — 社会における言語観の権力関係の観点から —」『世界の日本語教育』第 13 号、93-107 頁、国際交流基金日本語国際センター
- \_\_\_\_\_ (2005)「母国史(韓国史)学習と関連付けた日本史学習の可能性 — 「教科・母語・日本語相互育成モデル」の試みから —」お茶の水女子大学日本言語文化学会『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』編集委員会編『共生時代を生きる日本語教育 - 言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集 -』、150-164 頁、凡人社
- 松本恭子(2007b)「外国人児童の「生活言語」と「学習言語」を結びつける試み — 外国人児童が自作する日本語教材「あゆみ」(試作版 2007) —」『2007 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、239-240 頁、日本語教育学会

< 関連文献 >

- 大島百合子・MacWhinney, B. (1998)『日本語のための CHILDES マニュアル』改訂版  
白井英俊・宮田スザンヌ・中則夫編集、The J-CHAT Project
- カミンズ, ジム (2006)「学校における言語の多様性 すべての児童が学校で成功するための支援」  
中島和子・湯川笑子訳、[www.mhb.jp/mhb\\_files/Cumminshanout.doc](http://www.mhb.jp/mhb_files/Cumminshanout.doc)  
(2008 年 3 月 9 日取得)
- 迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』、アルク
- 中島和子(2004)「子ども、ことば、日本語。 子どもの言葉を育てるために 」『月刊日本語』2004 年 1 月号、52-53 頁、アルク
- バンクス, J.A.(1999)『入門多文化教育：新しい時代の学校づくり』平沢安政(訳)、明石書店
- Andersen, R.W. & Shirai, Y. (1994) Discourse motivations for some cognitive acquisition principles. Studies in Second Language Acquisition, 16, 133-156.
- Cummins, J. (1981) The role of primary language development in promoting educational success for language minority students, In California State Department of Education (ed.) Schooling and Language Minority Study: a Theoretical Framework , Los Angeles: California State Department of Education.
- Cummins, J.(1984)Wanted: A Theoretical Framework for Relating Language Proficiency to Academic Achievement among Bilingual Students, Ed.Charlene Rivera Language Proficiency and Academic Achievement, 2-19, Multilingual Matters Ltd.
- Cummins, J. (2000) *Language, Power and Pedagogy: Bilingual Children in the Crossfire*. Clevedon: Multilingual Matters.
- \_\_\_\_\_ (2001) Negotiating Identities: Education for Empowerment in a Diverse Society Second Edition. Los Angeles: California Association for Bilingual Education.
- \_\_\_\_\_ (2006)Language Diversity in School: Helping All Students to Succeed Academically, 第 9 回研究会「続・ダブルリミテッドノ一時的セミリンガル現象を考える ジム・カミンズ教授に訊く 」ハンドアウト 2006 年 6 月 13 日、名古屋外国語大学
- Ellis, R.(1994) The Study of Second Language Acquisition, Oxford University Press.